

2014年3月期 中間決算について

2014年3月期(2013年度)中間連結決算は、オープンスカイの適用に伴う国際線の新規就航・増便、昨年夏からの本邦LCCの国内線就航等により、前年同期比「増収増益」

通期連結業績予想は「増収増益」見通し。5月14日発表の前回予想から営業収益、営業利益、経常利益、当期純利益いずれも上方修正

1. 航空取扱量について

区 分	中間期(4月1日～9月30日)				通期(4月1日～3月31日)				前回見通し (5月14日 発表)
	2012年度 実績 A	2013年度 実績 B	【増減①】		2012年度 実績 C	2013年度 見通し D	【増減②】		
			数量 B-A	% B/Ax100			数量 D-C	% D/Cx100	
航空機発着回数(万回)	10.6	11.3	0.7	107.1	21.2	22.5	1.3	106.0	23.1
国際線	8.8	8.9	0.1	101.5	17.3	17.8	0.5	102.7	18.6
国内線	1.8	2.4	0.6	134.7	3.9	4.7	0.8	120.9	4.5
航空旅客数(万人)	1,688	1,811	123	107.3	3,343	3,543	199	106.0	3,522
国際線	1,525	1,561	35	102.3	2,971	3,062	91	103.1	3,069
国内線	163	251	88	154.1	372	480	108	129.1	453
国際航空貨物量(万トン)	97	96	△1	98.9	192	191	△2	99.2	187
給油量(万kl)	233	240	7	102.8	467	479	12	102.6	487

(1) 2013年度中間期の実績【増減①】

- 航空機発着回数、航空旅客数及び給油量は、尖閣諸島問題等の影響はあったものの、オープンスカイの適用、料金引下げ、増量割引等の効果、ボーイング787型機の運航再開による国際線の新規就航や増便、昨年夏からの本邦LCC2社の国内線就航により、いずれも前年同期に比べ増加。
- 国際航空貨物量は、製造業の生産拠点の海外移転等から輸出・輸入ともに減少したものの、成田を經由し三国間を輸送する仮陸揚貨物が増加し、総量では前年同期並み。

(2) 2013年度通期の見通し【増減②】

- 航空機発着回数、航空旅客数及び給油量は、オープンスカイの適用、料金引下げ、増量割引等の効果による新規就航や増便、回復傾向にある中国路線や好調な東南アジアを中心とした外国人旅客の増加、LCCによる国内線旅客の増加等によって前期を上回る見通し。
- 国際航空貨物量は、製造業の生産拠点の海外移転に変化の兆しは見られず、欧州経済の低迷、新興国の景気減速等もあって回復は鈍く、前期並みとなる見通し。

2. 連結決算について

(単位: 億円)

区 分	中間期(4月1日～9月30日)				通期(4月1日～3月31日)				前回予想 (5月14日 発表)
	2012年度 実績 A	2013年度 実績 B	増 減		2012年度 実績 C	2013年度 予想 D	増 減		
			金額 B-A	% B/Ax100			金額 D-C	% D/Cx100	
営業収益	955	994	39	104.2	1,892	1,948	55	103.0	1,923
営業利益	202	233	31	115.5	347	370	22	106.5	362
経常利益	165	200	34	121.0	275	304	28	110.3	293
中間(当期)純利益	101	128	26	126.0	153	181	27	118.1	165

(注) 業績予想は、当社が現時点で想定した航空取扱量等に基づき作成したものであり、不確定要素を含んでおります。

成田国際空港株式会社

〒282-8601 千葉県成田市成田空港内 NAAビル
URL: <http://www.narita-airport.jp/jp/>

WORLD
SKY GATE
NARITA

(1) 経営成績の概要

営業収益は 994 億円（前年同期比 39 億円増）、営業利益は 233 億円（同 31 億円増）、経常利益は 200 億円（同 34 億円増）、中間純利益は 128 億円（同 26 億円増）の「増収増益」

- 営業収益は前年同期比 4.2% (39 億円) の増収、営業利益は同 15.5% (31 億円) の増益。
 - 空港運営事業【減収増益】： 航空機発着回数、航空旅客数及び給油量は、新規就航や増便、昨年夏からの本邦LCC2社の国内線就航により増加。国際競争力を強化するための国際線着陸料等の引き下げの影響で空港使用料収入は減少し、旅客施設使用料収入、給油施設使用料収入は増加。営業収益は前年同期比 1.3%減の 534 億円。営業利益は前年同期比 14.6%増の 70 億円。
 - リテール事業【増収増益】： 国際線外国人旅客及び国内線旅客の増加、円安効果等により、子会社の物販・飲食収入及び一般テナントからの構内営業料収入が増加。営業収益は前年同期比 16.8%増の 288 億円。営業利益は前年同期比 19.9%増の 87 億円。
 - 施設貸付事業【増収増益】： 貸付料の割引措置の解消、駐車場収入の増加等により土地建物等貸付料収入が増加。営業収益は前年同期比 3.1%増の 157 億円。営業利益は前年同期比 9.7%増の 73 億円。
 - 鉄道事業【増収増益】： 成田スカイアクセスの線路使用料収入の増加等により、営業収益は前年同期比 3.2%増の 14 億円。営業利益は前年同期比 28.8%増の 3 億円。

(2) 財政状態の概要

- 資産合計は、空港容量 30 万回化に向けた設備投資はあったものの、減価償却が進んだことによる固定資産の減少等により前連結会計年度末 1.1%減の 8,712 億円。
- 負債合計は、社債の償還等により前連結会計年度末比 3.0%減の 6,113 億円。有利子債務残高は、前連結会計年度末比 3.3%、165 億円減の 4,914 億円。平均金利は前連結会計年度末から大きな変化はなく 1.36%。無利子債務を加えた長期債務残高は、前連結会計年度末比 3.0%、165 億円減の 5,411 億円。
- 純資産合計は、前連結会計年度末比 3.6%増の 2,599 億円。自己資本比率は、前連結会計年度末の 27.4%から 28.8%へ増加。

(3) キャッシュ・フローの概要

- フリー・キャッシュ・フローは 241 億円のキャッシュ・イン： 前年同期比 37 億円の増加
 - 営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前中間純利益が増加したこと等から前年同期比 10 億円増の 352 億円のキャッシュ・イン。
 - 投資活動によるキャッシュ・フローは、固定資産の取得による支出が減少したこと等から前年同期比 27 億円減の 111 億円のキャッシュ・アウト。

(4) 通期の連結業績予想

営業収益は 1,948 億円（前期比 55 億円の増）、営業利益は 370 億円（同 22 億円の増）、経常利益は 304 億円（同 28 億円の増）、当期純利益は 181 億円（同 27 億円の増）の「増収増益」見通し

- 国際線着陸料等の戦略的な引下げはあるものの、新規就航、増便等により航空機発着回数、航空旅客数、給油量が前期実績を上回ると見込まれることから、営業収益は増収、営業利益、経常利益、当期純利益はいずれも増益を予想。
- 2013 年 5 月 14 日発表の前回業績予想から、営業収益は 25 億円、営業利益は 8 億円、経常利益は 11 億円、当期純利益は 16 億円の上修正。

(注) 業績予想は、当社が現時点で想定した航空取扱量等に基づき作成したものであり、不確定要素を含んでおります。